

公衆衛生部門

受賞者： かとう くにお 加藤 邦夫 (88 歳)

医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 健康管理室 医師



1960 年に東北大学大学院で医学博士号を取得後、間もなく、医師不在の岩手県沢内村村立沢内病院に着任した。当時、財政難の沢内村は村民の健康状態もよくなく、病院の経営改革と村民の健康改善策に早急に取り組んだ。国民健康保険の自己負担金を払えない村民が多く、乳児と 60 歳以上の医療費を全額負担する条例を提案し、乳児と老人の医療費無料化を全国で初めて実施した。更に、村民の病気と死因の調査、全村民の健診を実施し、データに基づく生活・労働・環境改善、健康づくりの様々な施策を提案し、「村民が健やかに生まれ、健やかに育ち、健やかに働き、健やかに産み育て、健やかに老いて、120 歳前後の限界寿命までも、人生を味あわせる人づくり・まちづくり」に尽力し、氏が提唱した「沢内方式健康住宅改善、長瀬野地区集落再編事業」をはじめとした施策により 1963 年には全国初の乳児死亡率ゼロを達成した。豪雪地帯の沢内村では居室を南側に配置し、冬でも太陽光が入る大きな二重窓の設置を推奨。また雪下ろし作業と落雪被害の回避のため、東西面急勾配の屋根と高床式住宅を提案し、全村に普及した。また減塩、大豆蛋白、ごま油、高野菜食等による食生活改善、更に農業労働改善を推進し、村民の健康水準向上と医療費の削減、国保税減税に貢献した。

1975 年に仙台市衛生局にて、地方中核都市の保健・医療・福祉・教育・労働・建設等を包括する高齢化社会づくりの基本構想、基本計画策定を推進し、政令指定都市移行に尽力した。また 1996 年に仙台白百合女子大学教授に就任、大学の創設と女性の人材開発、及び福祉教育の実習教育施設の体系的整備に尽力した。2005 年より医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院にて、高齢者医療確保法に基づく特定健康診査、特定保健指導の受入れ体制整備に努めると共に、医療講演、日々人間ドック健診、メタボ健診、保健指導に尽力し、人々の生涯自立・生涯現役の健康・生き甲斐づくりに貢献している。

推薦者：野村 有子 医療法人そよ風会 野村皮膚科医院 理事長・院長